

団体名 八重瀬町立 白川幼稚園	連絡先 TEL：098-998-4037 Eメール：sirayou1@town,yaese.okinawa.jp
--------------------	---

1 実践事項 ( ① )

タイトル：「 白川小学校校区保幼小連携研修会 」

2 実践内容

八重瀬町立白川小学校校区のわかたけ保育園、のびる保育園、白川幼稚園、白川小学校とで連携を図るために、幼稚園・保育園で公開保育、小学校1年生の公開授業や研修会を実施。

幼稚園で幼児が遊んでいる様子を写真に撮り、ドキュメンテーションを作成。その後、保育園や小学校の先生方と育ちの読み取りや意見交換などを行った。

白川幼稚園公開保育では、小学校1年生担任・幼稚園年長担任・保育園年長担任がパネラーになりシンポジウムを開いた。

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

- 5月、白川小学校1年生の公開授業を授業参観しながら写真を撮影して子どもたちの育ちの部分などのドキュメンテーションを作成。

休み時間から授業へ臨む際の切り替えや先生の話をお聞きとする子どもの姿に成長を感じることができた。

- 8月、小学校の先生方と幼稚園の遊びを写したドキュメンテーションを使って研修幼稚園の様子を小学校1年生担任の先生方と10の姿を踏まえて育ちの部分を共有することができた。

### 自分達で遊びを作ろう！

幼児の姿

5月初旬、Aさんとてさんがボケモンのバトルで好きなキャラクターが描かれたピースを取り、ぶつけて遊ぶ姿が見られた。教師はその姿を見て、「ボケモンバトルをしたいのかな？」と姿を眺め取り、子ども達に「バトルはみんなが使うからぶつけるのは困るけど、どんな遊びがしたいの？」と聞いてみた。すると「ボケモンバトルみたいにバトルしたい。」との声。教師は子ども達の声を聞いて、カードの作成方法を考え、子ども達に提示してみた。すると「それ面白そう。」と教師と一緒にカードを作り始めた。

幼稚園のボケモンバトルとは・・・自分でオリジナルのカードを作り、層の上で順番通りにして闘う遊び。

**5月初旬**



5月初旬、ボケモンカードを作り始めた際の様子。また、描き方を先生に頼り、自分達でどうやれば作れるのか試行錯誤。中にはうまくいかずに涙を流して制作をやめちゃう子どもも・・・でも次週の授業でいる姿を見て、嬉しそうに再度取り組む姿もいました。

( 自立心 協同性 思考力の学生え 音楽による伝え合い )

**5月初旬**

先生の手から離れ、自分達で作りに慣れて始めた時期。自分の必要なボケモンを選び、大きさや形を考えながら制作。描いた絵を塗り付ける容器となる素材をボケモンにするのか軍艦にするのか、専用紙にするのかなど自分なりに作り方を工夫して制作していました。また、次週の作ったボケモンと見せ合いっこするように完成したボケモンに名前を書くなどの工夫が見られました。

( 自立心 思考力の学生え 豊かな感性と表現 )

**5月中旬**



自分のオリジナルのカードが出来上がると早速バトル開始。始めは好きなようにバトルを楽しんでいた子ども達でしたがルールが既知でバトルを返ってトラブルになることが増えました。それを見た教師が「みんなでルールを作ってみたい？」と提案。みんなで話し合い、ルールを作り、遊びが定着していきました。

( 協調的な心と体 協同性 思考力の学生え 道徳性・規範意識の学生え 音楽による伝え合い )

**7月初旬**



1学期の集大成としてボケモンバトル開催！大会当日は違う年組の子ども大会に参加し、楽しみました。自分達で決めたルールの基、自然したバトルを展開。負け負けしそうで泣く子どももいましたが、負けでも進歩が認められる表情をした子どもが多く、その姿、次週を一生懸命に頑張っていました。

( 協調的な心と体 協同性 思考力の学生え 道徳性・規範意識の学生え 音楽による伝え合い )

ボケモンバトルの遊びを通して育ってきたこと (幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿との関係性)

初めはカード作りで教師に頼る子どもが多かったが、制作の裏面を鑑み、作り方などを教師と一緒に行うことで徐々に自立心や思考力の学生えにつながりました。また、カード作りで次週と一緒に制作することで協同性や音楽による伝え合い、豊かな感性と表現も育っていきました。バトルが始まるようになってからは、目標を持って遊びに参加することで協調的な心と体が育ち、みんなでルール作りをすることで、道徳性・規範意識の学生えなどが育っているように感じました。



● 8月、保育園、幼稚園の情報交換会

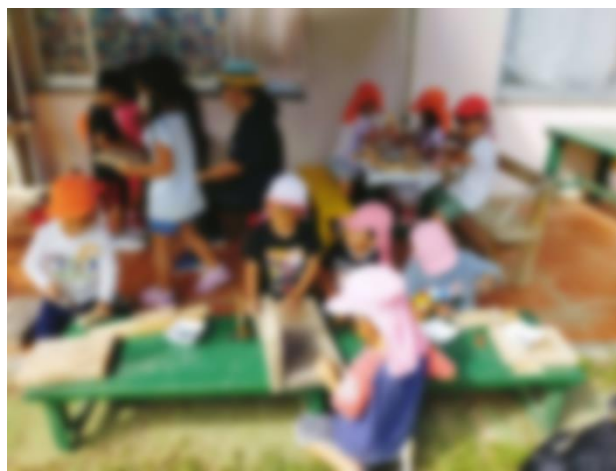


八重瀬町立の3幼稚園（白川幼稚園、新城幼稚園、具志頭幼稚園）と近隣保育園（港川保育園、のびる保育園、新城保育園）とで普段の記録の取り方や指導案の作成にあたって、取り組み方や困っていることなどの情報交換会を行った。

どの園も、保育の様子を教頭や園長とこまめに共有しているが、記録としてなかなか残せていないという話やドキュメンテーションの作成方法などを情報交換する事ができた。



● 10月 八重瀬町保幼小連携研修会 白川幼稚園公開保育およびシンポジウム



園庭では家づくりや木工遊び、バーベキューごっこ、室内ではお店屋さんごっこ遊びを楽しみました。

### 協力しながら遊びを進めよう

9月初旬の台風で、園庭の外にある大きなモクモクオウの木が折れ、園庭に落ちていました。園庭の清掃の際に、それに気づいた子どもが「先生、大きな枝が落ちてるよ」と声をかけてきたので、教師は「幼稚園の外にある木が台風で飛んできたんだよ。これを使って何か作れそうかな?」と話しました。すると「テントを作りたい」と子ども達の声があがり、折れた枝を一緒に拾い集めて、テント作りがスタートしました。

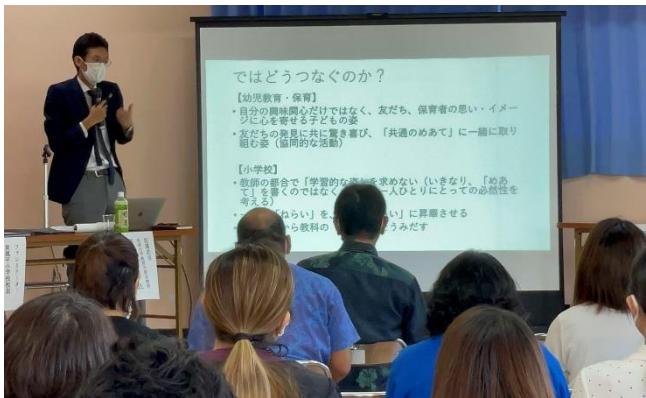
**イメージを共有**  
 どんなテントにしようかな?  
 必要な材料も揃えておこう  
 枝を拾い集めて制作スタート。まずは設計図作りから。自分の思いのテントも設計図に描いていきます。みんなでイメージしながら描くことで期待感が膨らんでいるのを感じました。

**遊ぶ様々な材料や道具に触れて遊ぶ**  
 初めで使うのこぎりや鉋をほかに経験したことのない子ども達も、先生や友達と一緒に触れていきます。またどんな風にテントが出来上がっていくか見えず、不安から「先生、本当にテント作れるのかな?」と聞く子どももいました。それでも初めで使う道具が楽しくて、切ることを楽しんで作業を進めていました。

**友達と一緒にやり進めた喜びを味わう**  
 完成したテントで遊ぶ児童の姿を見て年中児も一緒にテントで遊び始めました。自分で完成させたテントに自信を持った年中児はもっとテントが欲しいと友達同士で相談していました。  
 もっとテントが欲しいな!  
 みんなで先生に相談してみよ

**役割分担をしながら作り上げる楽しさを感じ**  
 外れないように紐でしっかり縛っておく  
 材料が揃ったらテントの骨組みへ。段々とテントの形が見えてくると、自分で必要な仕事を探し役割分担し始めました。必要な枝の長さも考えて切る係や骨組みの細かな枝も切る係、先生が紐で縛った所にガムテープで補強する係、内張の張り付けをする係等、一つの目標に向かって取り組み姿が見られました。  
 先生が縛んだ所はガムテープでも止めた方が外れない

**友達と一緒に作り上げる楽しさからみんなで協力して新たなものを作り出す活動へ**  
 ちゃんと並べて置いておくと次作る時に使いやすくなる  
 もっとテントが欲しい子ども達からの相談を受け、どんなテントを作りたいのか子ども達と話し合いを持ちました。すると「今年度のテントはたくさん入れたテントがいい」と子ども達。大きい物を作る際にはたくさん材料が必要になることを伝え、「最初に作ったテントを壊してそれも材料にしよう。」とみんなで相談して決定、解体することになりました。解体したテントの枝は次の制作で使いやすいようにちゃんと並べて整理しました。



パネラーに白川幼稚園 5歳児担任・のびる保育園 5歳児担任・白川小学校 1年生担任と、琉球大学准教授の岡花祈一郎先生を講師にお迎えして白川幼稚園で公開保育・シンポジウムを行った。

ドキュメンテーションを通してこれまでの遊びの様子を知らせ、本日の遊びの様子も踏まえ、保育園や小学校とのつながりある保育について考える研修会となった。

#### 4 成果

- 保**育園・**幼**稚園・**こ**ども園・**小**学校で研修をすることで、子どもたちの育ちの部分で共有することができた。
- 保幼こ小連携研修会を通して行った公開保育や公開授業をみて、子どもたちの成長の様子を見ることができ、幼稚園教育が保育園や小学校につながっていることを考えることができた。

#### 5 課題

- コロナ渦でもあり、子ども同士（保育園と幼稚園・幼稚園と小学校など）の交流する機会をもつことがなかなかできなかった。